

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200393		
法人名	有限会社 介護社		
事業所名	グループホーム助一みのかも		
所在地	美濃加茂市森山町5-23-3		
自己評価作成日	平成22年11月4日	評価結果市町村受理日	平成23年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171200393&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171200393&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年12月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然な環境の中で、残存機能をできる限り維持できるよう、その人らしい生活を送って頂けるよう、個別リハビリに力を入れていくことで、楽しみ、やりがい、意欲を引き出していきたいと思っています。職員間との信頼関係を作り、職員は、1人1人をしっかり見て、日常の変化など観察をしています。レクリエーションには、すごく力を入れて、楽しんで頂けるよう日々策を考えております。又、個別レクも視野に入れて支援していきたいと思っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台にある静かな住宅地の一角にある事業所で、広い敷地の中央には大きな家庭菜園が広がっている。菜園では、みずみずしい野菜が作られ、利用者の食卓を豊かにしている。事業所は、リハビリに力を入れており、運動療法・作業療法・学習療法等、利用者個々にリハビリメニューを立て、利用者も意欲的に実施し、身体機能の維持・向上に成果が得られている。利用者はリハビリを楽しみ、健康を維持しながら、その人らしく楽しい日々を過ごしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の皆様と共に「いつでも、どこでも、だれでも同じ援助・介護」を笑顔で個別に提供するを理念としており、急な見学の方、訪問の方にも笑顔で対応しています。	地域の人々との繋がりを大切に、「いつでも、どこでも、だれでも同じ援助・介護」を理念としている。定例会議や朝の申し送りで共有し、常に笑顔で、誰でも同じように支えあう関係を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域的にはまだ難しいですが、ボランティアの方々に訪問して頂き、踊り、歌、音楽療法、手品など思考をこらした出し物で、利用者も楽しんで頂いています。日曜日ごとに施設周辺の清掃をしたり、定期的虫駆除消毒をしている。又、自治会の定期清掃など、できる限り参加しています。	自治会に加入し、清掃活動などの町内行事に参加している。事業所周辺には、桜並木があり、毛虫駆除や落ち葉清掃などの役割りを担っている。地域からは、収穫した野菜や柿、花などの差し入れも日常的である。	住民とのつながりを深めるために、さらに、地域貢献と事業所の理解に向けた取り組みを継続されたい。また、保育園や小学校との交流も検討中であり、その実現にも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「パンフレット頂けますか?」「説明を聞きたい」などと訪ねてこられたり、認知症の方の対応など説明し、理解して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、行政、包括、民生委員地域代表、主治医、家族代表の方々の参加で、現状報告している。又、出席者からも色々な視点から意見を頂き、検討、見直しをしています。	2ヶ月に1回、医師、行政、地域包括支援センター、民生委員、地域代表、家族代表が参加している。医師の参加により、医療・健康面での活発な話し合いが行われている。多様な視点から得られた意見を参考にして、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	美濃加茂市のサービスネットワーク会議の参加で、他事業所との関わりを持ったり、話し合いの時間を設けたり、検討会議を開くなど取り組んでいる。今後、保育所、小学校などと交流できるように取り組みを検討しています。	市とは、地域包括支援センター、社会福祉協議会、福祉関係事業所で結成されたサービスネットワーク会議に参加し、意見・情報交換などで連携を深めている。会議では、地域の保育園や小学校との交流の意義と、実施方法について話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、勉強会を通して、拘束禁止の理解をしている。当施設では、時間を決めて玄関をオープンにして、外気浴、レク、散歩などし、利用者の方の気分転換などに取り組んでいます。	職員は、身体拘束について研修で十分理解し、拘束のないケアを実践している。利用者の精神状態や職員の体制上、見守りが十分でない場合、一時的な玄関の施錠はあるが、基本的には開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会を通し職員は、理解に努めている。自己の感情をコントロール出来るように、指導もしている。利用者間においても、声かけ、見守り強化により、防止に努めています。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度については、外部研修を受けています。成年後見制度も取り入れてますので、職場内の勉強会でも取り上げます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い、ご理解、納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見ポストを設置し、ご家族等の意見要望を頂くようにしています。又、アンケートでも意見を頂いたり、家族会で意見交換などし、運営に反映させています。	年に1回の定期に、また、新規の利用者があればその都度、アンケートが行われている。利用者からの外出の希望により、喫茶店や買物など外出の機会を増やすなど、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を、スタッフ会議、勉強会などで、意見交換や提案を聞く機会を設け反映させています。	代表者は、毎日、利用者・職員と共に昼食を摂り、気軽な会話の中から、情報収集を行っている。職員からは設備の改善や外出支援での意見・提案があり、改善に向けて反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を把握し、職場環境、条件の整備に努め、働きやすい環境づくりをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を積極的に受講し、その度受講したスタッフが中心となり勉強会で研修内容をあげていきます。又、職員内であがった疑問、課題に対しても順番に勉強会で解決していくよう努力しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の施設訪問、ネットワークなどでの交流を通し、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入所・見学などをして頂き、時間を共有するなかで、本人に安心と信頼をもって頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	依頼の段階から本人・家族のお話を十分に聞き、担当ケアマネからも情報を頂き、安心して頂けるような信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	頂いた情報を基に、必要支援の検討・確認をし、その人らしい生活を通して頂けるよう、適切な対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に寄り添う姿勢で、本人の声を十分聞いてさしあげ、一緒に過ごしながらの見守りに心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族通信・電話で近況報告を行い、ホームの行事には家族の参加もお願いし、絆を深めている。来訪の少ない家族には、電話を入れ来訪をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み美容へ家族におつれ願ったり、本人の希望で電話・手紙・はがきなどを出してもらっている。又、一緒にポストへ投函しています。	昔からの馴染みの美容院に、家族の協力を得て、通っている利用者もある。電話や手紙など利用者の希望に応じた支援に努めている。	利用者の楽しい思い出を振り返る機会として、馴染みの人や場所への支援を、事業所が、主体的に取り組むように今後も継続されたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩時、自立者が車イスの方を押して頂いたり、エプロンをして下さったりと、利用者間の支援、支え合いができる様な雰囲気作りをしています。又、利用者間のトラブルがない様に、気配りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夏祭りや運動会等の行事があるごとにご家族に連絡し、訪問や参加していただいています。又、相談や希望に応じ、情報も頂いています。入院された際も病院にお見舞いに出掛けたり、情報を頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者一人ひとりと会話をしながら気持ちを受け止め、又、月2回のカンファレンスを通して、職員間の意見交換をすることで、利用者個々に合った支援を行っています。	利用者は、会話で意思表示が出来るので、日常の会話から思いや意向を把握している。個別ノートに記録し、職員間で周知している。リハビリに意欲的な利用者が多く、個々の意向や能力に応じたリハビリメニューが立てられ実践されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴やこれまでの暮らし方、趣味、大切にしている習慣などを利用者本人と家族から情報を得ながら生活背景の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日常生活に応じたケアを行いながら、日々の体調を注意深く見守り、スタッフ間でも情報を伝え合い共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、利用者にとって問題となる課題を抽出し、スタッフ間で話し合いを行い、解決できるよう介護計画に沿ったケア実践に努めています。	本人や家族の意向を聞き、介護計画の実施記録をもとに職員間で評価を行っている。医師の指示や看護師のアドバイスを受け、新たな課題の有無などを職員間で話し合った上で、介護支援専門員を中心に具体的な介護計画を作成し、実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの課題に沿った日々のケア状況を記録し、定期的なカンファレンスを行いながら情報、対策を検討し、評価、見直しにつながるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医・歯科医師の往診、訪問看護などの医療的支援・指導を受けています。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、地域の実情の把握や協力をお願いしている。毎月の音楽療法、季節ごとの行事の準備実行を利用者さんと共に話し合い、作り、楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診日がある。利用者さんと先生の信頼関係もあり、家族も安心されている。状況に応じて、必要な専門医へ紹介、受診もしている。歯科は、連絡すればすぐ往診に来て頂けます。	入居の際、かかりつけ医について十分説明し、協力医を選択してもらっている。協力医は定期往診や24時間の緊急対応が可能であるため、利用者・家族の安心に繋がっている。歯科医師の往診もある。耳鼻科や眼科等への受診は、家族の協力を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常的に利用者の少しの変化でも申し送りで伝え、必要なときは訪問、看護師に報告、相談、受診を支援して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃から看護師、管理者が情報交換、治療法、期間など相談、話し合いをしている。又、家族とも話し合い、安心して治療が出来るよう病院関係の方々との関係作りを大切にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族、医師、看護師の意向を確認しながら十分に話し合い、終末期まで真心をもって、スタッフ全員で取り組みました。	過去に1例の看取り経験がある。事業所としては、経口摂取が目安となることを入居時に説明しており、入居と同時に、特別養護老人ホームへの申し込みを行なう人もある。経口摂取が困難になった場合は、医師や家族と十分に話し合い、医療機関への入院を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや定期的勉強会の中で、利用者さんの状況把握に努め、異変時や事故発生時の対応が出来るよう実技研修、訓練をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震など形をかえて、月1回訓練を行っています。スタッフ全員が、夜間時も災害時を想定し、危機感を持ち、焦らず、安全に、速やかにを心掛け行い、終了後は、必ず反省会をして改善すべき事を話し合います。	毎月、場面を想定した避難訓練が実施されている。消防署の指導による訓練には、運営推進会議の出席者や地域の関係者も参加している。地域に指定された避難場所の他に、事業所が避難場所として役割を果たせないか、行政や自治会に提案している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方々の性格などによって、言葉を選びながら対応し、又、排泄の有無などその場で聞かないように尊厳を損ねないように、対応する。利用者間の会話の中でも、表情などを観察し、スタッフが間に入り、対応しています。	職員は、利用者個々に声掛けや対応方法を使い分け、伝わりやすい言葉を選び、優しく話しかけている。食後の口腔ケアやトイレへの誘導にも気を配り、尊厳を損ねないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望にできる限り応えるようにしています。入浴、レク、リハなども無理には勧めません。散歩に行きたくても、天候などで行けない時などは、フロアーを会話しながら、気分を書さないよう声掛けを十分し、注意を払っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方々の希望は、できる範囲で支援しているが、職員の都合がつかない時は、時間をずらして頂いたりしながら、気分を書さないよう声掛けを十分し、注意を払っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、介助が必要な方は、スタッフの介助により声掛けしながら、洗面、髪など整えています。2か月に1度、出張理容を利用し、本人の希望によりカット、パーマ、カラーなど行っております。又、入浴時の服は、本人の好きな服を選ばれ更衣して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前の嚥下体操の後に、メニューを伝えたりしています。利用者の状態に合わせ、刻み、ペーストなど、食べやすい状態で調理にも気を配り、このような方々には、元の料理を見せてから声掛けし食べてもらっています。又、干し柿づくり、切り干し大根など楽しみながら手伝って頂いています。	利用者・職員全員で、食事の前と後の挨拶をし、ゆっくりとした食事風景であった。食事は、品数も多く、個々に馴染みの食器が使われている。嚥下機能に応じた食形態を提供し、食後は、テーブル拭きや食器拭きなど、出来る事への支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示に従い、主食、副食の量を一人ひとりに応じて対応しています。水分量多めの方は、常に手の届く所に置かせて頂き、声掛けにて少しずつでも飲めるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後に行っております。自立の方でも歯磨きの仕方、歯の状態など観察し声掛けしています。介助が必要な方は、なるべく自己にやって頂き、見守りの中で、出来ない所は一部介助にてして頂いています。同時に、舌のケア、義歯の状態など見て対応しています。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事・入浴・就寝前等にトイレの声掛けを行っている。又、はり絵等に集中しているとトイレを忘れがちになるため、途中で声掛けしている。夜間も個別時間誘導したりと対応しています。	個別の排泄パターンを把握し、トイレへ声掛け誘導している。生活の場面ごとに、こまめにトイレへ促し、オムツの使用を減らしている。夜間も個別に対応し、一部の人には、ポータブルトイレの使用で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日行っている全員参加のリハビリ体操の他に個々に合った時間と場所で個別リハビリを行い、腸の活性化を助長します。食事に関しては、畑の野菜を中心にしている。又、水分は、お茶・コーヒー等を飲まれています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の希望やタイミングが合わない場合もあるので、個々に合った時間帯に変更することもあります。又、入浴嫌いな方には、気を紛らすように仕向け、気持ちよく入浴してもらえるよう努力している。	夏は週3回、冬は週2回の入浴が基本で、主に午前の時間帯である。体調や行事によっては、午後の時間帯に行われることもある。菖蒲湯や柚子湯など、入浴を楽しむ支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、休みたいと言われれば、居室で休んでもらっている。時間を見計らって声掛けし、ロビーへお連れします。その時間が短くても「よく休めた」と喜ばれます。昼夜逆転しない程度の時間に留めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	声を出して氏名・日付・時間を必ず確認して、直接手渡しして、服薬した事を確認しています。体調の変化等があったら、すぐに主治医に連絡して指示を得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯干し、洗濯たみ等のお手伝い、はり絵、色塗り、計算ドリル等利用者さんが得意な分野の事をやってもらっている。レクリエーション、運動会、音楽療法、誕生日会等の楽しい行事も行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーに買い物、外気浴として、畑の周りを散歩していますが、家に帰りたいとの希望者には、時間をかけ散歩にも対応している。通院、外出、一時帰宅も家族にお願いしています。	利用者の身体能力に合わせて、外出を支援している。事業所の中央にある菜園の周囲を歩き、外気欲が楽しながら、身体機能を維持している。買物や喫茶店などの外出は週に1回あり、季節に応じたドライブにも出かけている。	



岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が所持、管理が難しいため、必要であれば家族に連絡していますが、それができなければ、事務所の方で管理し後で請求しています。強く希望される方は、自己にて管理して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望があれば自由にかけて頂いています。本人の希望があれば、手紙を書けるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2つのユニット間は、車椅子でも自由に行き来でき、室内は、いつも季節の花を飾り、窓も広く外の景色も眺められ、季節感を感じられる環境です。	事務所を中心に、左右に各ユニットが一直線に広がり、中央を広い廊下が通っている。各ユニットの居間は明るく、通気も良い。大きなガラス窓からは外の様子が良く見え、季節が感じられる。廊下には利用者が作成したちぎり絵や習字などが展示され、ギャラリーのようになっている。利用者それぞれの思いで、楽しく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にも自由に行き来でき、移動の制限はありません。思い思いに過ごして頂く事ができます。自己にて移動できない人でも、スタッフと一緒にユニット内を散歩したりして、ずっとその場にとどまる事はありません。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段使っていたものを持ってきて頂いています。利用者の状況に合わせ、好みのものを置いたり、飾ったりして工夫しています。	居室にはベッドと整理ダンスが備え付けられている。個々にソファや衣装ケースなどが持ち込まれ、壁には家族の写真や作品が飾られている。ベッド横にはポータブルトイレが設置されているが、昼間はカバーが掛けられ、細やかな配慮が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には、その人に合った写真や大きく名前を表示したトイレも大きく表示しています。歩行器や杖は、使い慣れたものを使用して頂いています。		